

## 【中学校外国語 研究授業 検討会記録】

### 1. デジタル教科書の活用について

#### (1) 新出単語の再確認 (フラッシュカード機能)

- ・生徒の様子を確認しながら単語の発音練習をすることができた。
- ・速さを変えられることで、生徒の意欲や集中力を高める効果があった。
- ・一定のリズムで練習することができた。

○実態に合わせた速さで、音声に合わせて、リズムよく繰り返し練習することができる。

△できない単語だけを取り上げて繰り返し練習させることができない。

※従来のフラッシュカードでは・・・

- ・個々の単語はあるが、**get up** のようなセットや **where's** のような短縮形のカードがない。
- ・教室内の両サイドの生徒には見えにくいので、いろいろな方向を向けながらカードを提示する必要がある。また、同時に、発音しながら読んでいるかどうか生徒の様子を確認することも必要である。
- ・読めなかったカードを提示し、その単語だけを繰り返し練習することが可能である。

#### (2) True or False (音声機能, ピクチャーカード機能による本文内容の確認)

- ・ピクチャーカードを黒板に貼り、CDを準備して音声を流すという時間が短縮できる。

○時間短縮により、他の学習活動に時間を使うことができる。

#### (3) Questions & Answers (本文理解 ライン機能による重要表現の確認)

- ・声を出して練習する時間が多くとれたことで、多くの生徒がきちんとラインを引くことができていた。

○重要表現の確認で、ラインを引く場所を分かりやすく示すことができる。「何ページの何行目に線を引きなさい」という言葉による指示では、下位群の生徒にとって難しいことも多い。

△拡大機能で大きく提示すると本文が途切れてしまうため、利用しなかった。

解決策としてプロジェクターの使用が考えられが、各校での整備が進んでいない状況である。プロジェクター専用の教室があれば活用しやすい。

※従来の板書では・・・

- ・本文をすべて黒板に書く、模造紙などに書いた本文を貼り出す必要がある。

#### (4) 音読練習 (音声機能, 役割分担機能)

- ・耳で聴いたことを「まね」することは得意だが、文字になっている「単語を読む」ことは難しい現状であるため、文字から音声化できることを目標にしている。
- ・ペアでの練習時間が充分にとれてよかった。
- ・リズムを意識して読む、適切なスピードで読むことができた。→リスニング力の向上につながる。
- ・生徒の様子を見ながら、理解できているか、音読しているかの確認ができた。
- ・繰り返し練習することができ、学習内容の習熟につながった。

○役割読みで、どの部分を読むかを色の変化で示すことができ分かりやすい。

○デジタル教科書の使用により教材準備の時間が短縮され、その結果生まれた学習時間で個別指導の時間を確保することができる。

#### (5) Dictation (まとめのワークシート ライン機能による答え合わせ)

- ・教材準備の時間短縮で生まれた学習時間を、繰り返し音読練習する時間にできたことで、内容の理解につながった。
- ・解答を確認する時、ライン機能で色をつけてポイントを示すことができ、分かりやすかった。確認したい単語を隠す時、単語オフの機能を使うこともできる。

○視覚に訴えることで理解につながる。特に下位群の生徒にとっては、単語や重要表現に色を付けて確認することで重要事項の理解に効果的である。

## (6) その他

### クリスクロスでの復習

- ・教師が質問して答える形で例示し、その後パターンプラクティスを実施。
- ・フラッシュカード機能を使って Where の練習（予習済）を実施。
- ・0.5 秒（時間は選択可能）設定で、フラッシュカードの英語のみを見せて発音。
- ・ワークシートは写す時に間違ふという問題点から、赤ペンで一度なぞってから練習させる。  
その後、小テストで確認し、間違ふた単語は 20 回練習して提出。

### 次時以降

- ・ Whose の学習。

### デジタル教科書の活用

- ・単元ごとに動画もあり、テロップを使ったり、音声を利用したり、日本語で示す、英語で示すなど、いろいろ工夫ができる。
- ・視覚に訴えることで生徒たちも集中して見ることができる。

## 2. ICT 活用の課題（ICT 機器を効果的に使うために）

### (1) 目的に合わせた ICT 機器の使用

- ・大型テレビで映すと文字が小さい。
- ・本文の文字数が増えると、本文が画面途中で切れてしまう。プロジェクター使用の検討も必要である。

### (2) 目的に合わせた提示方法

- ・アナログで残した方がよい場面の検討が必要である。

### (3) ICT 機器やソフトの充実

- ・デジタル教科書の有用性を感じることができたが、中学校では配備されていない状況である。
- ・校内での大型テレビの台数が少なく、他教科間での使用の状況により、デジタル教科書の利便性を生かすことができない状況である。
- ・価格が高い。しかし、ピクチャーカード、フラッシュカード、音声 CD をそれぞれ購入するよりは低予算である。

## 3. 授業者から

- ・これまで利用していたカード等を使った授業よりいかに時間短縮できるかが、今回の授業でのテーマであった。
- ・時間短縮できたことで、音読の練習が繰り返してきた。
- ・True or False や Questions & Answers, Dictation ができていた生徒が多かったので、授業の目的は達成できた。
- ・効率的に学習が進められるデジタル教科書の良さを先生方に伝えられたらいいと思う。

## 4. 指導助言（鶴川教授より）

- ・現在、デジタル教科書は小学校国語科のみ配備されているが、活用方法はいろいろある。予算が関係するため、全てに設置できない状況である。
- ・本時の授業は、デジタル教科書に頼り切っているのではなく、デジタル教科書をうまく利用した授業であった。
- ・授業全体の中で、デジタル教科書を自然に使いこなせているという授業であり、今後、外国語のデジタル教科書活用を考えてほしい。
- ・できることから進めていくことが大事なのではないか。今回の授業で、デジタル教科書を使った意義を考えてほしい。